



新政会 中村 浩 議員

- ①災害相互応援協定について
- ②Cバスについてのパート5

質問① 大規模な災害に備え、遠隔地の自治体と協定を締結し広域の協力体制を充実させては。また締結先として、F1サーキットの関係で静岡県的小山町や自動車産業面の関係、副市長の以前の赴任先などの都市を候補として考えてはどうか。

答弁① 現在、県内の全ての市町等を対象とした4つの協定のほか、東海道五十三次市区町災害時相互応援に関する協定などを締結している。提案のある都市は共通認識があり協議しやすいが、他にも文化・スポーツ・

歴史等、様々な方面で本市と関係のある自治体を視野に入れ検討したい。

質問② 中学生等が、勉強できる環境整備を図るため、市立図書館へCバスを運行させてはどうか。また、障害者や子供、高齢者を大切にする福祉都市の実現のために、公共交通がない市街化区域へも、コミュニティバスを運行させてはどうか。

答弁② Cバスは、原則的に民間事業者により、公共交通サービスが確保されない地域への、補完的なサービスと考えており、いわゆる福祉バスではない。今後は、民間の公共交通サービスとの連携や支援といったことも含め地域公共交通会議などを活用し、本市の公共交通サービスのあり方を検討したい。



無所属クラブ 板倉 操 議員

- ①第5次鈴鹿市総合計画について
 - (1)実施計画が計画書にない施策はどのようにするのか
 - (2)公立幼稚園の今後の方向性は
 - (3)在住外国人との地域での共生は

質問①(1) 市民と一緒に作った総合計画であり、市政運営の基本指針と市長も言っているが、重要なのに計画のない施策が57ある。どう扱うのか。

答弁①(1) 市が決めた重点施策の順に行っている。取り組み体制が不十分な点もあるが、各所属の責任において毎年検証・評価し目標達成に向けて取り組む。

質問①(2) 母数が少なくなり園児が集まらない園もあるが、母数が増えて幼稚園での2年保育の二-

ズが高まっている所もある。今後地域の中心である幼稚園をどのようにしていくのか、行政として地域の意見もしっかり聞いて方向を出すべきではないか。

答弁①(2) 今後保護者のニーズをしっかり把握し地域や市民の声に耳を傾けながら、一つにまとめたり幼保一元化も選択肢に入れ、幅広く検討を進める。

質問①(3) 在住外国人との共生は、外国人に一方的に発信する段階から、日本人と外国人が交じり合っ

て生活する方向へと行政が引っ張っていく時期に入ったのではないかと。住宅課の取組のように手本はある。答弁①(3) 状況はよく理解している。どのようにやっていくのかをさぐる為に「多文化共生推進庁内会議」を立ち上げた。8部局14課の担当職員で情報交換し対応策を検討していく。



緑風会 藪田 啓介 議員

- ①道路改良及び道路保全の実施実績などについて
- ②条件付き一般競争入札について

質問①(1) 各地区(自治会)から道路改良、保全の要望が提出されているが、未着手の要望件数はどうか。

答弁①(1) 道路新設・改良については過去10年間で2,027件あり、未着手は569件、道路補修は2,584件で398件が未着手となっている。

質問①(2) 要望着手まで数年かかると言われているが、地元との調整はされているのか。

答弁①(2) 道路保全は極力短期間で実施しているが、新設・改良の場合は緊急性、他事業との調整、地元合意などを考慮し、限られた予算で効果的実施をするた

め数年かかるのが現状である。

質問②(1) 一般競争工事入札参加資格業者別落札率はどうなっているのか。

答弁②(1) 平成17年度の建設工事関係平均落札率は94.43パーセント、同平成18年度は78.92パーセントとなっている。

質問②(2) 最低制限価格で複数業者が応札した場合抽選で業者指名となっているが、同じ業者が複数工事で同じ業者が落札する事についての対応はどうか。

答弁②(2) 落札候補者は適切な工事が可能かどうかを慎重に調査している。また新しい「総合評価落札方式」の試行的な実施を予定している。